

重点1 毎日の授業の充実

2 学びの一体化

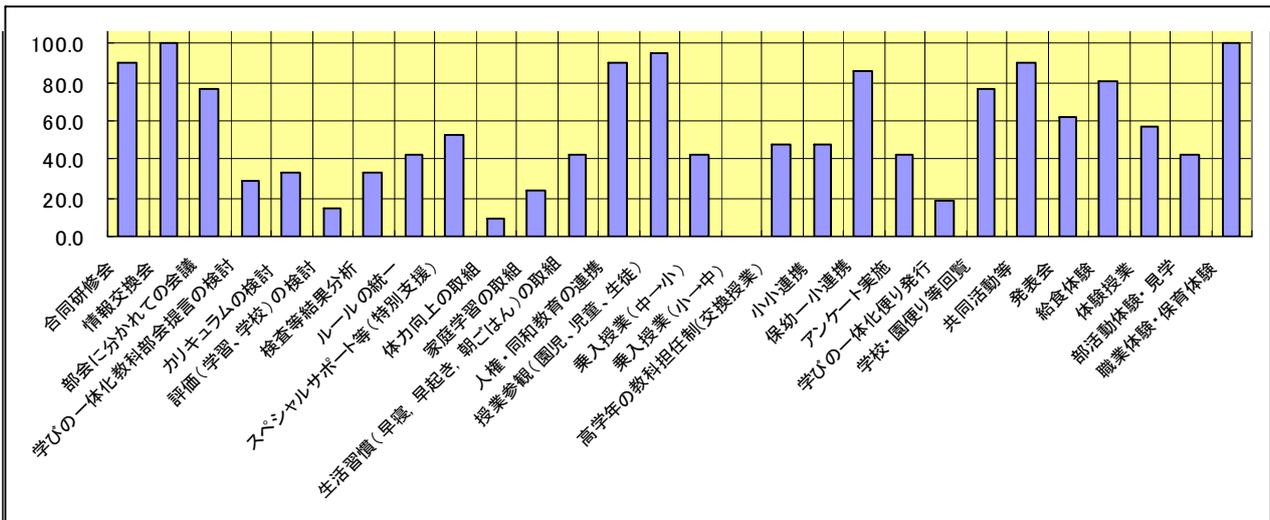
ねらい

「学びの一体化」とは、幼稚園・保育園・小学校・中学校が連携・協働して子どもの教育に携わり、子どもたちの「確かな学力の向上」と「心身の健やかな成長」をめざす取組です。

本市では、学びの一体化により、各学校園の区切りはそのまま大切にしながらも連携を深め、11年間の教育に「見通し」と「責任」を持つ取組の充実を図っていきます。

現状と課題

○ 平成22年度の各中学校区の活動 <21中学校区における各活動の取組の割合（%）>



※ 四日市市には中学校区が22校区あるが、1小学校から2つの中学校へ進学する2中学校区が合同で検討を行っているため、21校区となっている。

※ 乗入授業……小・中学校において、教員が異校種で行う授業

平成18年度から市内全中学校区において「学びの一体化」の取組が開始されて以来、子どもの実態等の情報交換や教員の相互交流などによって、互いの理解が進みました。一方で、次のような課題が明らかになってきました。

- (1) 学校現場の多忙化により、活動時間の捻出や調整に苦慮し、ダイナミックな活動ができない現状があります。
- (2) 校区の各学校園の研究の方向性がそろわず、校区で一貫性のある取組となっていない現状があります。
- (3) 喫緊の教育課題が山積する昨今の学校の現状もあって、「学びの一体化」の有用性を実感しにくい状況があります。

このような課題を受け、平成21年3月に、学びの一体化推進協議会から以下のような提言が出されました。

- 「幼保小中における研究課題と指導体制の一体化」
- 「中学校との連携を生かした小学校高学年における一部教科担任制」

平成22年度先行実施の3校区においては上記の取組がなされ、その様子を研修会等で市内に広めました。これにより、各中学校区においても、校区に応じた取組が進みつつあります。

○ 平成22年度 小学校における教科担任制の状況

教科 学年	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	外国語 活動
1学年	1校		0		0	8校	3校		1校	0
2学年	10校		0		0	19校	4校		1校	0
3学年	17校	1校	0	1校		39校	20校		2校	0
4学年	18校	0	0	3校		35校	25校		2校	0
5学年	15校	2校	0	7校		40校	16校	38校	2校	1校
6学年	18校	2校	0	9校		40校	14校	35校	2校	1校

※ ここでの教科担任制とは、学校として一部の教科について、教員の得意分野を生かして、年間を通じてある学級を対象に実施している場合をさします。なお、国語は、ほとんどが書写での実施です。

○ 先行実施校区における取組

先行実施を行った3校区では、研究課題を一体化し、協働して授業研究を進めました。また、中学校教員による小学校への乗入授業も行われました。この取組によって、教員同士が異校種の指導に学んだり、学習の系統性を考えることができたりといった具体的な成果が見られました。また、子どもたちにとっても、中学校に対する期待が大きく膨らんだといった声が聞かれるなど、小中学校双方の教員にとって、大きな意義がありました。

一方、学校の枠を超えた取組となることから、日程調整が難しかったり、打ち合わせや準備がたいへんであったりと、負担がかかることも否めません。取組の組織が大きくなることから、それぞれの進捗状況や意義を共有する難しさも見られました。

教科担任制については、担任間での授業の交換や、学年部所属の専科教員による授業など、工夫を凝らして行われました。教師集団がチームとなって、学年の子どもたちを指導することで、これまで以上に子どものよさや個性を発見でき、子どもたちの力の伸長につながることを実感できたとの報告も見られました。一方、学校規模によっては、指導体制が組みにくい現状があります。また、従来の学級担任制との組み合わせ方など、検討すべき課題も残っています。

今後の方向性

- 平成23年度は、先行実施校区をさらに3校区増やし、6校区での実践を進めていきます。推進協議会の二つの提言にかかる取組については、意義と長所をより明らかにするとともに、課題についても検討を進め、全市での実施をめざしていきます。
- 幼稚園・保育園、小学校の連携についても検討を行い、スタートカリキュラム（幼稚園・保育園と小学校の接続を滑らかにする双方の教育活動）の作成を進めます。